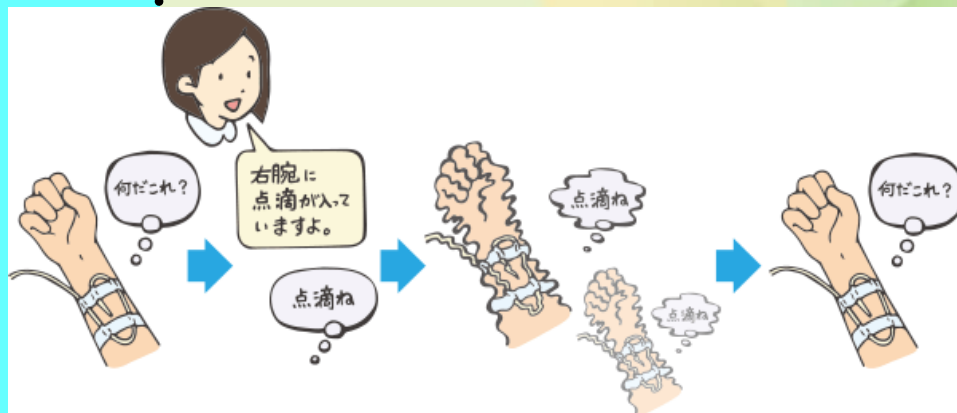


入院すると**せん妄**が起こることがあります

せん妄は、脱水・感染・貧血・薬物など、からだに何らかの負担がかかった時に、脳にも負担がかかることで生じる脳の機能の乱れ（意識の障害）です。

せん妄の時に起こる変化や特徴にはこんなものがあります。

- ・ぼんやりしている、うとうとしている
- ・話のつじつまが合わない
- ・場所や時間がわかっていない
- ・点滴などのチューブ類を抜いてしまう
- ・怒りっぽくなったり、興奮したり、涙もろくなる
- ・見えないものを見えると言ったり、ありえないことを言ったりする
- ・夜眠らない、夜になると症状が激しくなる
- ・以前と性格が変わったように感じる



せん妄の多くの場合は、一時的なもので、大半は身体の回復に伴って改善します

せん妄の期間中は異常行動が続き、急に認知症になったように感じますが、醒めると元の状態に戻ります。しかし、これをきっかけに、加齢に伴う認知症がそのまま発症することもあります

せん妄の症状を治療しないと、治療中の体の病気が悪化したり、新たな合併症がおこり、入院期間が延長することがあります

治療や転倒などの事故防止のために、ご家族には承諾書をいただき、身体の抑制をさせていただくことがあります